



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月30日

上場会社名 株式会社 トーモク

上場取引所 東 札

コード番号 3946 URL <https://www.tomoku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中橋 光男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 山口 禎人

四半期報告書提出予定日 2020年11月9日 配当支払開始予定日 2020年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

TEL 03-3213-6811

2020年12月3日

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	79,232	△4.9	1,450	△12.8	1,595	△8.1	980	0.5
2020年3月期第2四半期	83,332	5.6	1,663	17.5	1,735	△3.9	975	△5.4

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 1,453百万円 (363.6%) 2020年3月期第2四半期 313百万円 (△80.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	59.97	54.72
2020年3月期第2四半期	59.66	54.48

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	154,801		65,913		42.3	
2020年3月期	146,646		64,872		44.0	

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 65,472百万円 2020年3月期 64,463百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	20.00	—	25.00	45.00
2021年3月期	—	20.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	25.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	177,000	0.2	7,100	2.7	7,400	4.1	4,600	0.8	281.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	19,341,568 株	2020年3月期	19,341,568 株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	2,997,188 株	2020年3月期	2,996,664 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	16,344,752 株	2020年3月期2Q	16,345,769 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載した業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等について、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

※当社は以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。

この説明会で配布した資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

2020年11月27日（金）・・・機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動が停滞し、景気は大きく後退しました。企業収益や雇用・所得環境は悪化し、個人消費も減少、設備投資や住宅建設も力強さに欠けるなど、厳しい状況にあります。先行きについては、感染症の影響が残るなかで政府の経済対策の効果にも支えられ、社会経済活動のレベルを引き上げる動きも見られるなど、景気の改善基調を辿るものと予想されます。

その中で当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は79,232百万円（前年同期比4.9%減）、経常利益は1,595百万円（同8.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は980百万円（同0.5%増）となりました。

セグメントの業績は次の通りです。

〔段ボール〕

段ボールの国内需要は、コロナ禍の中、前年同期比マイナス5%程度とリーマン・ショック以来の大幅な減少となりました。

当社グループの国内段ボール生産量は前年同期比で若干マイナスとなりましたが、当社グループは食料品向けや通販・宅配向けの比率が国内平均より高いこともあり、全国の減少率までは落ち込みませんでした。

当期は段ボール工場に設置されているボイラ燃料の都市ガス化を更に進め、燃焼効率が良く二酸化炭素排出量の少ないボイラに更新するなど環境面での投資を進めてきました。また、北関東の館林工場と岩槻工場の間地点に位置する連結子会社の㈱トーシンパッケージ本社工場を近隣環境や老朽化問題解決の観点から移転に着手しました。来春に最新鋭の貼合機や加工機を配置した一貫工場が稼働予定で同地区での安定した生産・供給体制を構築してまいります。

印刷紙器部門では、千葉紙器工場に片面段ボールの貼合機と美粧パッケージ向けの合紙機を新たに導入し、新規需要先への販売活動を展開していきます。

海外では、米国段ボール子会社のサウスランドボックス社は工場拡張工事がコロナ禍の中、当初計画よりやや遅れてはいるものの、着実に進んでおります。

当社グループでは「環境や社会にやさしく、ビジネスと暮らしを包み、安全にお届けする」という理念のもと、次世代に住みよい地球を引き継ぐため、ESG・SDGsへの取組み方針と2030年達成目標を設定し、事業活動と調和した環境保全活動に取り組んでまいります。「ホワイト物流」推進運動もスタートから2年目に入りましたが、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保できるよう、荷主・物流当事者として主体的に改善を進めております。

段ボールの売上高は販売数量の減少等により47,989百万円（前年同期比5.0%減）となりましたが、働き方改革・デジタル化の推進等による生産性の向上を主とした営業費用の減少により営業利益は2,875百万円（同2.6%増）となりました。

〔住宅〕

住宅事業においては、昨年10月からの消費増税前の駆け込み需要があり、その反動があったことや感染症拡大による外出自粛により展示場への来場数が減少するなど、住宅着工戸数は低調に推移しました。

スウェーデンハウス㈱はスウェーデンハウスの様々な情報を発信するアプリ「ムースくん」の配信をスタートするとともにホームページを刷新し、バーチャル展示場などのWEB活用やオンラインでの商談など営業活動の変革に取り組む、また法人営業を強化し紹介受注の増大を図ってまいりました。

快適性能No.1のアピールと価値の持続する家作りを基本に「オリコン日本顧客満足度ランキング」で6年連続第1位の受賞を積極的に訴求するとともに、当期におきましては新築戸建住宅を建設されるお客様に東京ガス㈱と共同で太陽光発電設備を無償で提供するサービス『HUS ECO ZERO × ずっともソーラー』を開始し、また、平屋住宅（レットナード）にルフトデッキを加えたプランを投入するなど、企画を充実した結果、受注棟数は前年同期比22%増となりました。

住宅の売上高は感染症拡大による工事の着工・施工の遅れにより一部の引渡しは下半期にずれ込んだことやリフォーム部門の減収により11,946百万円（前年同期比6.4%減）となりました。内部では施工能力増強のため、協力会社の確保や施工品質の向上に努めるとともに、工事のコストダウンに全社を挙げて取り組んでおります。この結果、売上が下半期に集中し上半期はコストが先行するという住宅事業の特性もあり、営業損失は1,998百万円（前年同期は営業損失1,835百万円）となりました。

〔運輸倉庫〕

運輸部門においては、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言に伴う外出自粛・飲食店営業時間の短縮・在宅勤務等や7月の長梅雨の影響で、当社グループの主力である飲料製品の自動販売機向けやコンビニエンス向け等の輸送数量が大幅に減少しました。

倉庫部門においては、飲料関係の出荷の落込みはありましたが、関東エリアにおける新規飲料センターの受託や東北エリアでの新規営業所の開設などにより増収となりました。

運輸倉庫の売上高は取扱数量の減少により19,296百万円（前年同期比3.8%減）となりました。また、輸送数量減による輸送効率の悪化や費用増加もあり、営業利益は954百万円（同11.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金等が減少しましたが、たな卸資産や固定資産等の増加により、前連結会計年度末比8,154百万円増加の154,801百万円となりました。負債は支払手形及び買掛金等が減少しましたが、その他流動負債の増加等により前連結会計年度末比7,113百万円増加の88,887百万円となりました。純資産の部は利益剰余金やその他有価証券評価差額金等の増加により前連結会計年度末比1,041百万円増加の65,913百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績を踏まえ、2020年5月8日に発表いたしました業績予想を修正しております。

詳細につきましては、2020年10月26日に発表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,559	9,995
受取手形及び売掛金	29,524	29,316
電子記録債権	3,374	3,150
たな卸資産	10,543	13,902
その他	4,578	5,146
貸倒引当金	△69	△44
流動資産合計	58,510	61,468
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,435	24,287
機械装置及び運搬具(純額)	14,239	13,587
土地	33,032	32,953
その他(純額)	1,960	6,835
有形固定資産合計	73,667	77,664
無形固定資産	242	249
投資その他の資産		
投資有価証券	8,459	9,134
その他	6,022	6,539
貸倒引当金	△255	△255
投資その他の資産合計	14,225	15,419
固定資産合計	88,135	93,333
資産合計	146,646	154,801

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,666	17,391
短期借入金	3,676	4,512
1年内返済予定の長期借入金	4,657	1,600
未払法人税等	1,530	1,148
賞与引当金	1,758	1,743
その他の引当金	253	169
その他	7,700	14,572
流動負債合計	39,244	41,138
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	2,999	2,999
長期借入金	30,579	34,660
退職給付に係る負債	3,829	3,800
その他の引当金	644	572
その他	4,477	5,716
固定負債合計	42,529	47,748
負債合計	81,773	88,887
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,669	13,669
資本剰余金	11,226	11,226
利益剰余金	41,268	41,839
自己株式	△4,320	△4,321
株主資本合計	61,844	62,414
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,874	3,345
繰延ヘッジ損益	△45	1
為替換算調整勘定	△148	△210
退職給付に係る調整累計額	△61	△78
その他の包括利益累計額合計	2,618	3,057
非支配株主持分	409	441
純資産合計	64,872	65,913
負債純資産合計	146,646	154,801

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	83,332	79,232
売上原価	70,006	66,478
売上総利益	13,325	12,754
販売費及び一般管理費	11,661	11,304
営業利益	1,663	1,450
営業外収益		
受取利息及び配当金	137	120
仕入割引	91	87
雑収入	162	149
営業外収益合計	391	357
営業外費用		
支払利息	88	83
固定資産賃貸費用	38	47
為替差損	104	28
雑損失	87	52
営業外費用合計	319	211
経常利益	1,735	1,595
特別損失		
固定資産処分損	92	18
減損損失	1	1
特別損失合計	93	19
税金等調整前四半期純利益	1,642	1,576
法人税、住民税及び事業税	1,267	1,184
法人税等調整額	△649	△623
法人税等合計	618	560
四半期純利益	1,024	1,015
非支配株主に帰属する四半期純利益	48	35
親会社株主に帰属する四半期純利益	975	980

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	1,024	1,015
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△478	469
繰延ヘッジ損益	△47	46
為替換算調整勘定	△139	△62
退職給付に係る調整額	△46	△16
その他の包括利益合計	△710	437
四半期包括利益	313	1,453
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	265	1,418
非支配株主に係る四半期包括利益	48	34

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、当社グループの2021年3月期においては、第1四半期に政府から発令された緊急事態宣言や自治体からの外出自粛要請等により厳しい制約の下で経済活動が行われるため、受注減が発生し、2021年3月期後半より回復する前提での仮定を置き、固定資産の減損会計における将来キャッシュ・フローや繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。前連結会計年度末より重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	段ボール	住宅	運輸倉庫	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,492	12,770	20,068	83,332	—	83,332
セグメント間の内部売上高 又は振替高	254	2	2,241	2,498	△2,498	—
計	50,747	12,772	22,310	85,830	△2,498	83,332
セグメント利益又は損失(△)	2,801	△1,835	1,083	2,049	△386	1,663

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△386百万円には、セグメント間取引消去32百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△418百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	段ボール	住宅	運輸倉庫	計		
売上高						
外部顧客への売上高	47,989	11,946	19,296	79,232	—	79,232
セグメント間の内部売上高 又は振替高	389	0	2,448	2,838	△2,838	—
計	48,379	11,947	21,744	82,071	△2,838	79,232
セグメント利益又は損失(△)	2,875	△1,998	954	1,832	△382	1,450

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△382百万円には、セグメント間取引消去30百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△412百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。